１　取組名称

理系学生のグローバル化を促進する国際教育活動

２　取組組織等

理工学研究科、都市教養学部理工学系、
都市環境科学研究科、都市環境学部
システムデザイン研究科、システムデザイン学部

３　取組実施代表者名

理工学研究科分子物質化学専攻　准教授　好村 滋行

４　取組年度期間

2017 年度（１年間）

５　取組の概要

本取組の目的は、グローバルに活躍できる理系人材の育成を最終的な目的として、留学、海外インターンシップ体験、国際会議での発表、外国人研究者とのディスカッションなどで理系学生（大学院生および学部生）に必要となる「理系の実践的英語力」を養成することである。

理系三部局（理工学研究科／理工学系・都市環境科学研究科／都市環境学部・システムデザイン研究科／システムデザイン学部）が連携して組織的に運営に取り組むことで多くの理系学生への浸透を図り、裾野を広げることも目的の一つである。最終的には科学自体が本質的なグローバル化のための強力なツールの一つであることを学生に自覚してもらい、異分野の学生との交流を通じて、広い視野と経験を兼ね備えた理系学生の育成を行う。具体的には以下の内容を計画している。

① 理系学生グローバル化教育活動：English Village の実施
② 海外体験支援
　(i) 海外インターンシップ体験
　(ii) 大学院生の長期海外共同研究
　(iii) 学部生の短期海外留学支援

2017 年度は English Village と海外インターンシップ体験や共同研究指導プログラム、派遣留学生経済支援制度との連携を昨年度より更に強化するため、プログラムのアナウンス方法も新たに工夫する。また、海外からの科学英語教育専門家の招聘、外国人留学生による English Village への TA としての参加、一般的な SNS を活用するなどしたインターネットをより能動的に駆使した活動展開を予定している。

６　事後評価の総合評定

４．０　※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った５段階評価（５～１）の平均点

７　事後評価に関する審査会での主な意見

○英語能力を高めるためのプレゼン能力強化、科学英語の集中講義、海外インターンシップ体験を組み合わせており、4 研究科から学生が参加していることからも、本取組が広く認められ英語能力向上に効果をあげていると考えられる。

○理系の研究者として備えておきたい素養を、PartI:プレゼンテーション能力の向上、PartII:ライティング／リーディング、という形で目的にメリハリをつけ、学生が取り組みやすいプログラムである。

○教育改革推進事業による正課外の取組みとしてではなく、正課（学部・大学院の授業）に導入すべきである。